

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 629 号	氏名	崎村 千香
学位審査委員	主査 高村 昇 副査 川上 純 副査 永安 武		
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、原発性副甲状腺亢進症における術中の血中副甲状腺ホルモン (iPTH) モニタリングの必要性について検討したものであり、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 原発性副甲状腺亢進症手術を行った 60 症例に対して、術前に頸部超音波検査 (US)、MIBI シンチグラフィ (MIBI) を行ってその異常腺局在の乖離の有無を評価すると同時に、異常腺摘出前後の iPTH 濃度を測定してその変化を評価し、異常腺局在の乖離の有無との関連を検討しており、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、US と MIBI での異常腺局在が同一 1 腺であった 56 症例では、全例が術後 60 分以降の iPTH 濃度が正常範囲内であった。一方、US と MIBI での異常腺局在に乖離を認めた 4 例では 3 例が術後 60 分以降の iPTH 濃度が正常範囲内、1 例が iPTH 濃度の再上昇を認めた。以上の結果は、原発性副甲状腺亢進症の手術に際し、術前の US と MIBI での異常腺局在が同一 1 腺であった場合には術中の iPTH は省略が可能である可能性を示唆するもので、原発性副甲状腺亢進症における術中 iPTH モニタリングの適応例についての新たなガイドラインを提言するものである。</p> <p>以上のように、本研究は原発性副甲状腺亢進症の新たな術中評価法確立に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士 (医学) の学位に値するものと判断した。</p>			